

NPO法人 SouRire balloon 定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、~~NPO法人~~ SouRire balloon という。
NPO法人

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都葛飾区におく。

(目 的)

第3条 この法人は、バルーンアートを通じて子どもたちや地域の人々に笑顔と希望を届けることを目的とする。子どもたち、障害のある方、ひとり親家庭、両親のいない子どもたちなど、様々な背景を持つ人々が安心して参加できる時間を創出し、芸術的表現と心の交流を通じて、地域社会の温もりと共生、コミュニティづくりを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類のNPO活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (5) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (6) 子どもの健全育成を図る活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 子どもとその家族を対象とした芸術・表現活動の企画・運営事業
- (2) 地域住民との交流を促進するイベント・ワークショップの開催事業
- (3) 心のケアや感情表現を支援するバルーンアート等の創作活動事業
- (4) 子どもや若者の社会参加を促す教育・啓発事業
- (5) 事業内容に対する広告宣伝事業

第2章 会 員

(種 別)

第6条 この法人の会員は、次の3種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 協力会員 この法人の目的に賛同し活動を支援するために入会した個人及団体
- (3) 賛助会員 この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体

(入 会)

第7条 会員の入会について、特に条件は定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。
- 3 理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 理事長は、第2項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 1 この法人は、正会員に対して入会金及び会費を徴収しない。

2 協力会員及び賛助会員は、総会で別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

3 会費の納入方法、納期等については、理事会の定める規定による。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次のいずれかに該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会の申し出があったとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 総会の議決により除名されたとき。

(退 会)

第10条 会員は、退会しようとするときは、その旨を文書により代表理事に提出し、任意に退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次のいずれかに該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

- (1) 法令または定款に違反したとき。
 - (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

(拠出金品の不返還)

既に納入された寄付金、その他拠出金品は、いかなる理由があっても返還しない。

第3章 役 員

(種別及び定数)

第12条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上
- (2) 監事 1人以上

2 理事のうち1人を代表理事とする。

(選任等)

.....
第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 代表理事は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職 務)

第14条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 代表理事以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 代表理事に事故があるとき又は代表理事が欠けたときは、代表理事があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

(任期等)

第15条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解 任)

第17条 役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。
- 2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

第4章 会 議

(種 別)

第19条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

第20条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の権限)

第21条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 会員の除名
- (4) 事業計画及び予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び決算
- (6) 役員の選任及び解任
- (7) 役員の職務及び報酬
- (8) 入会金及び会費の額
- (9) 資産の管理の方法
- (10) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第47条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (11) 解散における残余財産の帰属
- (12) 事務局の組織及び運営
- (13) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第22条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。
- (3) 監事が第14条第5項第4号の規定に基づいて招集するとき。

(総会の招集)

第23条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときには、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第24条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第25条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することはできない。

(総会の議決)

第26条 総会における議決事項は、第23条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 理事又は正会員が、総会の目的である事項について提案した場合において、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の社員総会の決議があったものとみなす。

(総会での表決権等)

第27条 各正会員の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、前2条及び次条第1項の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

第28条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 正会員総数及び出席者数（書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2人が、署名また記名押印しなければならない。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録による同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
 - (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
 - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
 - (3) 総会の決議があったものとみなされた日及び正会員総数
 - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

(理事会の構成)

第29条 理事会は、理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第30条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項

- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(理事会の開催)

第31条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第32条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 代表理事は、前条第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第33条 理事会の議長は、代表理事がこれにあたる。

(理事会の議決)

第34条 理事会における議決事項は、第32条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会での表決権等)

第35条 各理事の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第36条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人が署名または記名押印しなければならない。

第5章 資 産

（資産の構成）

第37条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) 補助金及び助成金
- (7) その他の収益

（資産の区分）

第38条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産とする。

（資産の管理）

第39条 この法人の資産は、代表理事が管理し、その方法は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

第6章 会 計

（会計の原則）

第40条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

（会計の区分）

第41条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業会計とする。

（事業年度）

第42条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（事業計画及び予算）

第43条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、毎事業年度、代表理事が作成し、総会の議決を経なければならない。

（暫定予算）

第44条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

（予算の追加及び更正）

第45条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

（事業報告及び決算）

第46条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関す

る書類は、毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

（臨機の措置）

第47条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散及び合併

（定款の変更）

第48条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項については、所轄庁の認証を得なければならない。

2 この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

（解 散）

第49条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の議決を経なければならない。

3 第1項第2号の事由によりこの法人が解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第50条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会において議決したものに譲渡するものとする。

（合 併）

第51条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第8章 公告の方法

（公告の方法）

第52条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して

行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページにおいて行う。

第9章 事務局

（事務局の設置）

第53条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置することができる。

2 事務局には、事務局長及び必要な職員を置くことができる。

（職員の任免）

第54条 事務局長及び職員の任免は、代表理事が行う。

（組織及び運営）

第55条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

第10章 雑 則

（細 則）

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、代表理事がこれを定める。

附 則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

代表理事	坂入 かほり
理 事	田口 直美
理 事	千野 喜庸子
監 事	高杉 育子

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から令和9年6月30日までとする。

4 この法人の設立当初の事業年度は、第42条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から令和8年3月31日までとする。

5 この法人の設立当初の事業計画及び予算は、第43条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

- (1) 入会金 正会員（個人） 0円
活動会員（個人・団体） 0円
賛助会員（個人・団体） 0円
- (2) 年会費 正会員（個人） 0円
活動会員（個人・団体） 1口1,500円
賛助会員（個人・団体） 1口3,000円

（1口以上）

役員名簿（役員名簿及び役員のうち報酬を受ける者の名簿）

特定非営利活動法人 N P O 法人 SouRire balloon

1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

- ☒ 以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）
- ☒ 各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

2 役員一覧

	役 名	(フリガナ)		報酬の有無	役職名等
		氏 名			
1	理事	サカイリ カホリ		無	代表理事
		坂入 かほり			
2	理事	タグチ ナオミ		無	理事
		田口 直美			
3	理事	チノ キヨコ		無	理事
		千野 喜庸子			
4	監事	タカスギ イクコ		無	監事
		高杉 育子			
5					
6					
7					
8					
9					
10					

令和7年度

事業計画書

NPO法人 SouRire balloon

1 事業実施の方針

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 70 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
子どもとその家族を対象とした芸術・表現活動・運営事業	地域自治体・団体と連携しながら、イベントやおまつりにてバルーンアートや無料配布。協力会員や未成年メンバーも参加し、準備から当日までの運営を協働すること、地域とのつながりやメンバーの育成を育む。	10月、11月、12月	足立区、葛飾区	8名	足立区六本木駅近隣住民、葛飾区金町駅近隣住民	600人	30
地域住民との交流を促進するイベント・ワークショップの開催事業	地域住民が年齢や背景を問わず安心して参加できる交流イベントやワークショップの開催に向けての準備	12月、1月、2月、3月	葛飾区	9名	未定	未定	10
心のケアや感情表現するアート等制作活動事業	医療的ケア児、障がいのある方、心に不安を抱える子どもなど支援が必要なものにも配慮し、バルーンを無料提供する。	12月	葛飾区東金町	2名	母子生活支援施設子ども	30人	2
子どもや若者の社会参加を促す教育・啓発事業	子どもや若者が地域社会の一員として自らの役割を見出し、安心して参加できる教育・啓発活動を企画・運営する年齢や心身の状況にかかわらず、それぞれの得意や思いを活かせる機会を提供する。スタッフによる見守り体制も整える。	10月、11月、12月、1月、2月、3月	葛飾区、足立区	9名	未定	未定	5
事業内容に対する広報・宣伝事業	地域の産業フェアや公共施設等において団体の活動紹介チラシを設置・配布すること、広く地域住民に周知する。特に葛飾区産品フェアなど地域に根ざした活動に参加し、地域とのつながりを深める。	10月10日～17日	テクノプラザかつしか	1名	葛飾区の一企業・一般区民	不明	13
〃	団体の活動や理念を広く伝えるため、SNS・チラシ・webサイト等を活用した情報発信を行う。	10月、11月、12月、1月、2月、3月	葛飾区	5名	葛飾区の一企業・一般区民	不明	10

令和8年度

事業計画書

NPO法人 SouRire balloon

1 事業実施の方針

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 438 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
子どもとその家族を対象とした芸術・表現活動・運営事業	地域自治体・団体と連携しながら、イベントやおまつりにてバルーンアートや無料配布。協力会員や未成年メンバーも参加し、準備から当日までの運営を協働すること、地域とのつながりとメンバーの育成を育む。	4月、5月、8月、10月、11月、12月	足立区、葛飾区、三郷市	9名	足立区六本木駅近隣住民、葛飾区金町駅近隣住民	1200人	200
地域住民との交流を促進するイベント・ワークショップの開催事業	地域住民が年齢や背景を問わず安心して参加できる交流イベントやワークショップの開催。	7月、8月、12月	葛飾区周辺	9名	葛飾区金町駅周辺	100人	170
心のケアや感情表現を支援するバルーンアート等創作活動事業	医療的ケア児、障がいのある方、心に不安を抱える子どもなど支援が必要なものにも配慮し、バルーンを無料提供する。	施設のイベント等に合わせ	葛飾区周辺予定	9名	病院や施設で暮らす子どもたち	100人	40
子どもや若者の社会参加を促す教育・啓発事業	子どもや若者が地域社会の一員として自らの役割を見出し、安心して参加できる教育・啓発活動を企画・運営する年齢や心身の状況にかかわらず、それぞれの得意や思いを活かせる機会を提供する。スタッフによる見守り体制も整える。	通年	葛飾区足立区三郷市	9名	未定	未定	13
事業内容に対する宣伝・広告事業	団体の活動や理念を広く伝えるため、SNS・チラシ・webサイト等を活用した情報発信を行う。	通年	葛飾区足立区三郷市	5名	葛飾区・一般区民	不明	15

令和7年度 活動予算書（その他事業がない場合）

NPO法人 SouRire balloon

（単位：円）

科	目	金額	小計・合計
【A】 経常収益			
1 受取会費			0
正会員受取会費	0		
協力会員受取会費	0		
賛助会員受取会費	0		
2 受取寄附金			170,000
受取寄附金	170,000		
施設等受入評価益	0		
3 受取助成金等			0
受取補助金			
4 事業収益			0
子どもとその家族を対象とした芸術・表現活動の企画・運営事業収益	0		
地域住民との交流を促進するイベント・ワークショップの開催事業収益	0		
心のケアや感情表現を支援するバルーンアート等の創作活動事業収益	0		
子どもや若者の社会参加を促す教育・啓発事業収益	0		
その他目的達成のために必要な事業収益	0		
5 その他の収益			0
受取利息	0		
経常収益計			170,000
【B】 経常費用			
1 事業費			0
(1) 人件費			
給料手当	0		
役員報酬	0		
退職給付費用	0		
福利厚生費	0		
(2) その他経費			70,000
会議費	0		
旅費交通費	40,000		
施設等評価費用	0		
減価償却費	0		
印刷製本費	30,000		
事業費計			70,000
2 管理費			0
(1) 人件費			
役員報酬			
給料手当			
退職給付費用			
福利厚生費			
(2) その他経費			28,000
消耗品費	20,000		
水道光熱費			
通信運搬費			
地代家賃			
旅費交通費			
減価償却費			
ボランティア保険加入	8,000		
管理費計			28,000
経常費用計			98,000
当期経常増減額【A】－【B】・・・①			72,000
【C】 経常外収益			
固定資産売却益	0		
過年度損益修正益	0		
経常外収益計			0
【D】 経常外費用			
固定資産売却損	0		
災害損失	0		
過年度損益修正損	0		
経常外費用計			0
当期経常外増減額【C】－【D】・・・②			0
税引前当期正味財産増減額①＋②・・・③			72,000
法人税、住民税及び事業税・・・④			70,000
前期繰越正味財産額・・・⑤			
次期繰越正味財産額③－④＋⑤			2,000

令和8年度 活動予算書（その他事業がない場合）

NPO法人 SouRire balloon

(単位：円)

科	目	金額	小計・合計
【A】 経常収益			
1	受取会費		13,500
	正会員受取会費	0	
	協力会員受取会費	4,500	
	賛助会員受取会費	9,000	
2	受取寄附金		600,000
	受取寄附金	600,000	
	施設等受入評価益	0	
3	受取助成金等		0
	受取補助金	0	
4	事業収益		0
	子どもとその家族を対象とした芸術・表現活動の企画・運営事業収益	0	
	地域住民との交流を促進するイベント・ワークショップの開催事業収益	0	
	心のケアや感情表現を支援するバルーンアート等の創作活動事業収益	0	
3	子どもや若者の社会参加を促す教育・啓発事業収益	0	
	その他目的達成のために必要な事業収益	0	
5	その他の収益		0
	受取利息		
経常収益計			613,500
【B】 経常費用			
1	事業費		
	(1) 人件費		50,000
	給料手当	0	
	役員報酬	0	
	退職給付費用	0	
	福利厚生費	50,000	
	(2) その他経費		388,000
	会議費	20,000	
	旅費交通費	150,000	
	施設等評価費用	0	
	減価償却費		
	印刷製本費	60,000	
	ボランティア保険	8,000	
	ワークショップ場所代・講師代	150,000	
事業費計			438,000
2	管理費		
	(1) 人件費		12,000
	役員報酬	0	
	給料手当	0	
	退職給付費用		
	福利厚生費	12,000	
	(2) その他経費		70,000
	消耗品費	60,000	
	水道光熱費	0	
	通信運搬費	10,000	
	地代家賃	0	
	旅費交通費	0	
	減価償却費		
管理費計			82,000
経常費用計			520,000
当期経常増減額【A】－【B】・・・①			93,500
【C】 経常外収益			
	固定資産売却益		
	過年度損益修正益		
経常外収益計			0
【D】 経常外費用			
	固定資産売却損		
	災害損失		
	過年度損益修正損		
経常外費用計			0
当期経常外増減額【C】－【D】・・・②			0
税引前当期正味財産増減額①＋②・・・③			93,500
	法人税、住民税及び事業税・・・④		70,000
	前期繰越正味財産額・・・⑤		2,000
次期繰越正味財産額③－④＋⑤			25,500

NPO法人 SouRire balloon

設立趣旨書

現代社会において、子どもたちやその家族が孤立や不安を抱える場面が少なくありません。安心して心を開ける場が不足しています。特に、ひとり親家庭や両親のいない子ども・病気や障害・喪失体験などに直面すると、地域とのつながりが希薄になりがちであり、笑顔や希望を分かち合える機会が限られてしまいます。

私たちは、バルーンというやわらかな媒体を通じて、笑顔と希望を届ける活動を続けてきました。SouRire balloonは、バルーンを通じて子どもたちやその家族、地域の人々に笑顔と安心を届ける活動を行い、心のつながりを育むことを目的としています。特に、病気や喪失、経済的困難などに直面する子どもや家族に対して、無料または安価で参加できるイベントや交流の場を提供し、孤立の予防と心のケアに寄与することができればと思い、NPO法人としての設立を決意しました。

バルーンは、ただの遊び道具ではありません。それは、笑顔を運ぶ贈り物であり、記憶と未来を結ぶ架け橋となり、誰かの心に灯る小さな光になります。

具体的には、地域でのバルーンアートイベントやワークショップ、福祉施設への訪問、ボランティアの育成、他のNPO法人との協力、SNSを活用した啓発活動などを行います。

これまで仲間たちと活動してきましたが、活動依頼も増え、より多くの方々に安心して参加いただくためには、法的な信頼性と継続性が必要です。法人格を取得することで、活動の透明性を高め、支援の輪を広げていくことが可能になります。また、今までは関わることのできなかった、病院や障がい者施設・児童養護施設などの静かな部屋にも、バルーンに込めた希望を届けたいと願っています。

私たちの活動には、ADHDを抱える少年も参加しています。彼は長らく引きこもりがちで、人との関わりに不安を感じていました。最初は静かに見守るだけだった彼が、ある日、自分の手でバルーンを作り、小さな女の子に手渡し姿を見せてくれました。その小さな一歩が、彼自身の世界を広げるきっかけになり、今ではほんの少しずつですが周りとのコミュニケーションも取れるようになってきています。

SouRire balloonは、こうした「ほんの少しの変化」を大切に育てる場所です。バルーンは、誰かの心にそっと触れる力を持っています。そしてその力は、孤独をほどこき、つながりを編み直す糸にもなり得るのです。私自身も娘を亡くし喪失感から心の中に孤独を抱えて過ごしていた時期がありました。その経験があったからこそ、今、同じように痛みを抱える人にそっと手を差し伸べることが出来ます。

私たちは、誰もが笑顔になれる場を地域に根ざして育てていきます。設立日は、私の亡き娘の誕生日である12月14日を予定しており、この日を希望の記念日として、未来へとつなげていきます。

2025年9月20日

設立代表者 氏名

坂入 かほり